

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2018

Spring

魅惑のイースター島
太平洋に浮かぶ楽園

第三特集

世界三大瀑布に迫る



南太平洋に浮かび、チリ本土から3500kmも離れた絶海の孤島「イースター島」。乗船予定者のアンケートやピースボートスタッフからも人気No.1の寄港地だ。神秘に包まれたこの島は、モアイ像だけでなくさまざまな文化や伝統など魅力がいっぱい。一方で近年の観光化によって島ではある問題が起きている。ピースボートの船旅を通して知ることができるイースター島の今に迫ってみる。

EASTER ISLAND

魅惑のイースター島へ

太平洋に浮かぶ楽園

CONTENTS

特集

太平洋に浮かぶ楽園
魅惑のイースター島 P3

イースター島の歴史 P4
地図で見るモアイ像 P6
イースター島交流コース P8

第二特集

世界三大瀑布に迫る P10
船内生活[体験談] P14
船内生活[Pickup] P16
船内生活[自主企画] P18



Ocean Dream

チリ・イースター島から望むオーシャンドリーム号

表紙の写真
イースター島と
いえばモアイ
像。第100回、
101回クルー
ズで寄港予定。



は諸説あるが、遅くとも10世紀頃には造りだされたとされ、村に点在した集落を守るようにいたるところで造られていた。モアイの材料には島内の「ラノ・ララク」と呼ばれる噴火口跡で採石できる凝灰岩が使われている。

18世紀頃には、人口増加に伴いモアイ像造りの「最盛期」を迎えたイースター島だが、そのための森林伐採が自然破壊を引き起こし、深刻な食糧危機に直面する。これをきっかけに部族間の衝突も増加し、島中を巻き込んだ戦乱の時代に突入してしまう。結果として多くのモアイ像が倒され、今でも島には倒れたままのモアイ像が点在している。

島民たちによる争いの末、いつしかモアイ像は造られなくなり、その結果生み出されたのが「鳥」を崇拜する文化だ。その文化は、海に閉ざされたこの島で、自由に飛ぶ鳥こそ神の力が宿っているという考え方に基づいている。この島でそれを語るのに外せないのが、島の南西部に位置する「オロンゴ岬」。青い空、濃紺の海を望むことでき、地元の人たちも「ここから見る海が一番美しい」というくらいの絶景のポイントだ。ここでかつて行われていたのが



4:倒されたままの15体のモアイ像(アフ・トンガリキ)が日本のクレーン会社によって立てられたのは有名な話。5:鳥人儀礼の舞台となった小島は遙か遠くに。石碑にも鳥人の絵が描かれている。



Tangata Manu

「鳥人儀礼」というもの。その内容は、彼らが崇拜する創造の神「マケマケ」をこの島に導いたとされるゲンカンドリの卵を、オロンゴ岬の絶壁の下の小島まで泳いで獲りに行き、もつとも早く島へ持ち帰ってきた者がその年の支配者「鳥人」になれるというものだ。

イースター島といえばモアイ像のイメージが強いが、海も非常にきれいなことで有名。断崖絶壁に囲まれた島で人気の真っ白な砂浜をもつアナケナビチは、エメラルドグリーンの海が美しい。ここでは「アフ・ナウナウ」と呼ばれる7体のモアイ像を見ることができ、帽子のようなものを被っているものもあるなど、この島にあるどのモアイ像もひとつとして同じものがないことに気づき始める。ピースボートスタッフからも絶大な人気を誇り、神秘に包まれた島は、まさにパワースポットそのものだ。

※ボリネシア：太平洋の北南東にそれぞれ位置する、ハイ、ニュージーランド、イースター島を結ぶ三角形の広大な地域になる無数の島々のこと。指す。



島の南西に位置する火山「ラノ・カウ」。直径約1600m、水深4~5mの巨大な火山湖は島の貴重な水源でもある。

「絶海の孤島」ことイースター島。大型客船が停泊できるような港湾施設がないため、オーシャンドリーム号を沖合に錨泊させ、テンダーボートに乗り替えて上陸をする。テンダーボートが着くポイントは当日の天候や波の高さなどで変わり、場所によつては船からモアイ像を望めることも。さらに現地の人によると、稀に大きなウミガメを見る事もあるといい、そこが豊かな海であることを知ることができる。

イースター島という名前は、1722年にオランダ人が初めて訪れた日が年にオランダ人が初めて訪れた日が

「復活祭(イースター)」であったことにちなんで名づけられたとされる。一方で現地では「ラパヌイ(大きな島)」と呼ばれて、今でもボリネシア※系住民をはじめ4000人以上がこの島で暮らしている。1990年代初期には25000人程度だったといわれる人口も、観光化とともに人数が増え、村にはホテルなどの宿泊施設がどんどん増えている状況だ。歴史をさかのぼつてみると、この島に人が住み始めたのは、4~5世紀のこと。ボリネシアの島々から人々が移住してきたことがきっかけとされる。この島の象徴であるモアイ像について



1:伝統衣装を着たラパヌイの男たち。今も昔もたましい。2:アフ(祭壇)がないものや倒されたものなど、さまざまなモアイ像が点在する。3:朝や夕焼けは神々しい景色が一面に広がる。



南太平洋の秘境イースター島



4 アフ・ナウナウ
帽子を被ったモアイ

島内でも帽子を被っているモアイ像は数少なく、その中でも複数体並んで立っている珍しい場所。比較的新しいモアイ像だとされる。


4 Ahu Nau Nau
アフ・ナウナウ


1 ラノ・ララク
石切り場もある数多くのモアイ群
この場所で採石できる凝灰岩は柔らかく加工がしやすいのが特徴。ほとんどのモアイはここで造られたとされ、モアイ製造工場とも呼ばれる。


5 アフ・アキビ
海側を見る7体

島内の多くのモアイ像が海を背にして立っているのに対し、このモアイ像は海に向かって立っていて、人の集落があつた形跡がないことなどが特徴。


6 プナ・パウ
帽子の切り出し場

モアイの頭にのせる帽子(ブカオ)の切り出し場所で今も赤い石が残る。ちょっとした高台で眺めも楽しめる。


8 アフ・バイフ／アフ・アカハンガ
このあたりは倒されたモアイが多い

島内で起きた争いの激戦区と推測され、今なお倒されたままのモアイ像が多い。一番大きいアフは、イースター島初代の伝説の王・ホツマツアの墓といわれている。


7 アフ・タハイ
目玉のあるモアイ

モアイ像に目玉が付いた珍しい1体も。夕暮れ時には、バックに輝く夕陽を見るために多くの人が集まる。


3 テ・ピト・クラ
光のヘソと呼ばれる石

ラバヌイ語で「光のへそ」を指す。どのような意味を持っていたのか、そしてどのような儀式が行われていたのかについてはいまだに謎のままだ。


2 アフ・トンガリキ
横一線に15体のモアイ

この島一番の撮影スポット。昼だけではなく明け方には真っ赤に染まる神秘的な光景を望むことができる。大阪万博に来ていたモアイ像もこの近くに。


ひとつとして同じものはないモアイ像

この島にあるモアイ像はなんと約1000体。それらは姿や大きさ表情など、造られた時代や部族によつてもさまざま、とても興味深い。中でも注目のスポットが、モアイ像の製造場所だったとされている「ラノ・ララク(①)」。ここには、岩から切り離されたまま島内に散らばっていたとされるが、今はすべてきれいに一列に並んでいる。さらにこれらの近くには、1970年開催の大阪万博で展示されたものも含まれていて、懐かしの再会を果たす乗船者も少なくない。ここは島の東側に位置し、日の出の時間は朝日をバックに美しい光景も広がり必見だ。

最後にこれらを見学するにあたつて気をつけたいのが、神聖とされるアフ(祭壇)の上に登つてはいけないということ。このあたりは船内で事前に知る機会があるのでしつかり学んでおきたい。

この島にあるモアイ像はなんと約1000体。それらは姿や大きさ表情など、造られた時代や部族によつてもさまざま、とても興味深い。

中でも注目のスポットが、モアイ像の製造場所だったとされている「ラノ・ララク(①)」。ここには、岩から切り離さ

れる途中と思われるものや完成途中のもの、体の一部しかるものなど、数にして約390体ものモアイが点在する。中には、「正座するモアイ像」などの珍しいものも見ることができる。ビュー

ポイントとして有名なのは15体ものモ

アイ像が並ぶ「アフ・トンガリキ(②)」。

これらが発見された時は、いずれも倒

れたまま島内に散らばっていたとされ

Food & Goods

 さまざまな食材を
バナナの葉で蒸す郷土料理。

 青空の下で
食べるお肉は
絶品。

 ツナやタコなどが入ったパン
「エンバナーダ」は美味。

 お土産はもちろんモアイ像に
まつわるもののが人気。

モアイ像の形をした地酒ビスコまで。


伝統文化に触れる

この島に古くから伝わる伝統舞踊も現地で体験できる。ボディペインティングなども楽しめ、気分は何百年も前にタイムスリップ。

その光景を見たピースボートスタッフが自分たちにも何かできることはないかと動き出したのが2006年のこと。同じような危機感を抱いていた現地の小学校の先生とともに、子どもたちに「もったいない」という日本の文化を教えたり、サイクルの方法を劇で教えたりするなどの環境活動が始まった。同時にピースボートは市長との面会も実現。市長の賛同を得て、島内には新たにリサイクルセンターが設立された。まもなくして缶ごみの消毒方法も整備され、本来は本土に持つていけなかつたはずのごみも一部は持つていけるような制度変更も実現した。スタッフの小さな歩から、島民の環境に対する意識も着実に根付き始めている。

ピースボートがこの島で行っている活動はこれ以外もある。そのひとつが、ピアニカや文房具などを現地の子どもたちに届ける活動。市の予算が少ないので、生徒らにそれらを揃えてあげられないことを知り、日本で集めたものを寄港のたびに届けるという活動を10年以上続けていている。今では農機具や自転車など、現地の人が本当に必要としているもの“を届けながら、心あたたまる交流が毎年続いている。

現地に住む人々との交流はピースボートの船旅の大きな魅力。気になるコースはぜひ今のうちにチェックしておきたい。


現在の問題を知る

リサイクルセンターでは、その島で出たごみすべてが集まる。缶の圧縮機も導入されるなど、着々と設備は整ってきている。



世界でも有数の観光スポットとして、観光客数は年々増加の一途をたどるイースター島。そんなこの島が直面しているのが深刻な「ごみ問題」だ。もともとチリはワインの生産が有名で、ぶどうやその他農作物に対する外来種被害を取り締まるため出入国際には検疫が厳しく行われている。しかしそのような中イースター島で起きてしまったのが、海外からの外来種による村全体の Deng熱流行。その結果、イースター島のものをチリ本土に切持つていけないという厳しい規制が始まってしまった。

こうして、ごみの処理設備が充分でない島内では、世界中から来る観光客のペットボトルや缶なども島で処理する必要が出了。それに加え、島民らの家庭で出たごみなども野原で分別なく焼却され、常に黒煙が立ち上っているといった状況が長く続いていた。

その光景を見たピースボートスタッフが自分たちにも何かできることはないかと動き出したのが2006年のこと。同じような危機感を抱いていた現地の小学校の先生とともに、子どもたちに「もったいない」という日本の文化を教えたり、サイクルの方法を劇で教えたりするなどの環境活動が始まった。同時にピースボートは市長との面会も実現。市長の賛同を得て、島内には新たにリサイクルセンターが設立された。まもなくして缶ごみの消毒方法も整備され、本来は本土に持つていけなかつたはずのごみも一部は持つていけるような制度変更も実現した。スタッフの小さな歩から、島民の環境に対する意識も着実に根付き始めている。

ピースボートがこの島で行っている活動はこれ以外もある。そのひとつが、ピアニカや文房具などを現地の子どもたちに届ける活動。市の予算が少ないので、生徒らにそれらを揃えてあげられないことを知り、日本で集めたものを寄港のたびに届けるという活動を10年以上続けていている。今では農機具や自転車など、現地の人が本当に必要としているもの“を届けながら、心あたたまる交流が毎年続いている。

現地に住む人々との交流はピースボートの船旅の大きな魅力。気になるコースはぜひ今のうちにチェックしておきたい。

イースター島へ着くまでは、船内企画も多数行われる。以前、水先案内人として乗船していただいたのは、現地の若者たちが立ち上げた島唯一のNGO団体「TOKI」。彼らは島の文化や伝統を継承すべく、世界各地での伝承活動をはじめ、島の子どもたちに対する音楽教育などさまざまな活動を行っている。

船内では、伝統的な歌や踊りのパフォーマンスを披露し、ラパヌイ語のレクチャーなどイースター島文化を存分に楽しめる企画が行われた。他にも漁民の村であった島の昔の暮らしをはじめ、モアイ像について詳しく述べることができる「モアイ像講座」なるものも。アフ(祭壇)に登つてはいけないなど、見学に際しての注意事項もここで学ぶことができた。そして島で起きている「ごみ問題」にも目を向



TOKIのメンバーによる貴重な講座。



イースター島に古くから伝わる伝統的なパフォーマンス。



衣装やペイントは古くから伝わるもので大迫力のステージ。

文化や歴史に触れる
船内イベントも充実

「ごみ問題」に向き合う



世界二大瀑布に迫る

Iguazu Falls
Victoria Falls
Niagara Falls

ピースボートクルーズに乗って訪れることができる世界の代表的な瀑布が3つ。それが南米大陸のイグアスの滝、アフリカ大陸のビクトリアの滝、そして北米大陸のナイアガラの滝だ。地球が生み出した壮大な自然美は、世界中の人々を魅了し続けてやまない。

「ダイナミックな滝のスケールは世界一
「イグアスの滝」

「ブラジルとアルゼンチンの国境にまたがる「イグアスの滝」。迫力でいえば世界中のすべての滝のなかでも世界一といつても過言ではない。滝に近づくにつれ聞こえてくる轟音は、毎秒55000トンもの圧倒的な水量によるもの。大小275の滝からなり、最大落差は80メートル以上、滝幅はなんと約4キロメートルという圧倒的なスケールだ。その様子から名付けられた「イグアス」という名は先住民族の言葉で、大いなる水“という意味だ。この場所の楽しみ方のひとつが、滝を間近で拝むことができる遊歩道散策。イグアスの滝がある国立公園は約2割がブラジル側で、残りがアルゼンチン側というように分かれている。その→

れば各所で虹を見つけることができる。くつきりとその姿が現れるチャンスは日差しが傾く午後。一日中シャッター・チャンスは続くが、滝の間近まで近づける分、カメラやスマートフォンの防水ケースや撥水性の高いバッグがあると便利。オーバーランドツアーを申し込むと行ける有料のヘリコプターも人気が高い。時間にして15分程度の間に、滝を囲むようにどこまでも広がる濃い緑のジャングルが眼下に広がる。広さはブラジル側が約185000ヘクタール、アルゼンチン側が約65000ヘクタールで、合わせて東京都とほぼ同程度だ。

これら一帯の国立公園は世界自然遺産に登録され、アマゾンの豊かな動植物や自然を観察することもできる。遊歩道を歩いていても、ふさふさした毛並みにかわいらしい目をした「ハナグマ」が見られることも。ハナグマ以外にも、日本では見かけない蝶などさまざまな生き物たちが生息している。

地球の裏側という普段なかなか行くことのできない場所だけに、参加者の満足度も非常に高い。記念すべき第100回地球一周クルーズで訪れることになるイグアスの滝。ハイライイトにふさわしい迫力満点のスポットだ。

Iguazu Falls

2段構造の滝が多いのもイグアスの滝の大きな特徴。地球が生み出した壮大な自然景観に思わず息を呑む。



1:ヘリコプターからの景観は圧巻。2:イグアス川と巴拉ナ川が合流する地点にはブラジル・アルゼンチン・パラグアイの三国国境の記念碑が建つ。3:ツアー参加者はジャングルに大興奮。4:野鳥園にはトウカなど珍しい鳥も。



最大落差108mからの水煙は大迫力

「ビクトリアの滝」

アフリカ大陸南部のザンビアとジンバブエの国境に位置する「ビクトリアの滝」。この滝の最大の特徴はなんといつても「高さ」だ。滝から落ちる水量は三大瀑布の中でも随一といわれ、雨季

には噴煙と見間違えるほどの水煙が垂直になんと最大500mほども立ち上がる。現地の言葉で「雷鳴轟く水煙」を意味する「モシ・オ・トゥニヤ」という別名があるほどの大迫力が魅力だ。



Victoria Falls

一般的な呼称「ビクトリアの滝」は、かつてイギリスの探検家リビングストンが冒険の末に再発見し、あまりの偉容に女王の名前を付けたとされる。

そして多数の滝が流れ落ちるジンバブエ側と、より近くで滝の迫力を体感できるザンビア側の双方から滝を楽しめるのもポイント。

この滝の特徴的なところは、周囲数百キロメートルにわたって広がるサバンナに、突如割れ目のような大迫力の深い渓谷が現れるところ。これら一帯は1989年に世界自然遺産に登録され、アフリカゾウやバッファローといったアフリカならではの動物を見ることができる。植物では、ナツメヤシやナツツケといった、本来であればこの地域には見られないはずの熱帯の植物の姿も。実はこれらはすべて滝の噴煙が降り注いだことによるもの。アフリカの肥沃な大地が生み出した自然の驚異を肌で感じられる魅力溢れる場所だ。



1:圧倒的な高さゆえ、水しぶきは遊歩道まで。2:サバンナにはカバをはじめ豊富な動植物がたくさん。



1:世界三大瀑布の中では唯一世界遺産に登録されていないが、観光客からの人気は高い。
2:ヘリツアーはここでも人気。ナイアガラのすべてを堪能できる。

アメリカとカナダの国境も兼ねていて、レインボーブリッジという橋を渡ると徒歩で国境を越えることもできる。

Niagara Falls



アメリカとカナダの国境に位置し、日本からも比較的行きやすく人気の観光地である「ナイアガラの滝」。五大湖のひとつであるエリー湖の水がオンタリオ湖に注ぐその途中のナイアガラ川にできた巨大な滝で、滝の高さはあまりないが幅が広く、単独で流れる滝の水量では北米で最大規模だ。

この場所でぜひ訪れてほしいのが、カナダ側にある展望台「スカイロンタワー」。地上約236mから、360度のパノラマを眺望可能だ。他にもアメリカ側から乗船できるツアーボート「霧の乙女号」は滝壺の寸前まで近づくことができ、人気の高いアトラクション。滝を上から眺めたり、船上から水しぶきを浴びたりと、さまざまな角度から景色を楽しめるのがこの滝の最大の魅力だ。

「ナイアガラの滝」



また季節によって表情が変わるもの特徴のひとつ。氷が崩れ落ちる早春に始まり、滝に虹がかかる夏、秋冬の夜のライトアップなど、見る人によつてもお気に入りの光景はさまざま。アクセスのよさから、クルーズでなくとも気軽に訪れる事はできるが、他2つの滝を訪れたことがある方はぜひともこの機会に世界三大瀑布すべてを制覇してほしい。



乗船してみて感じた

体験談

乗船までの準備は？船内生活はどんな日々？100日間の船旅なんて初めてだからわからないものだけ。そんな方でもご安心あれ。地球一周の船旅親善大使として活躍する経験豊富な三名が、体験談とアドバイスを教えてくれました。



左・中)泉英伸さん、千栄子さん。第81回地球一周クルーズ(南回り)に定年退職を機に夫婦で乗船。下船後は船内で覚えた南京玉すだれをボランティアで披露するなど精力的に活動。4/23に帰船する第91回クルーズに乗船。
右)坂野井真弓さん。第91回地球一周クルーズ(北回り)に乗船。乗船前は飲食店を経営し、帰国後は船内で出会った若者らと都内にレストランをオープン。

坂野井さんの1日

6:00	起床
6:30-6:45	モーニングコーヒー(デッキ)
7:00-7:30	朝食(メインレストラン)
8:00-9:00	音楽会場(ウクレレ)企画参加
9:30-10:00	無料美会話教室
12:00-13:00	昼食(デッキ)
14:00-15:30	和太鼓練習企画参加
16:30-17:30	水先案内人(ゲスト)講義参加
18:30-19:30	夕食(メインレストラン)
20:00-20:30	ウォーキング(10Fデッキ)
21:00-23:00	映画鑑賞
23:00-23:30	バーで一杯
24:00	就寝

■ピースボートを知ったきっかけ

泉(英伸)…私がピースボートのことを知ったきっかけは、街で見かけたポスターでした。当時は仕事をしていたので、100日間も休むのは難しかったんです。

しかしあと数年で定年を迎えるとなつたとき、仕事に没頭していた私を支えてくれた妻へのプレゼントとして乗船を検討するようになりました。そしてクルーズの説明会に参加してみたら、ちょうど定年の年に第81回地球一周クルーズがあることを知り、自分でも驚くほどなのが、その場で申込書にサインしたんです。

泉(千栄子)…そのときは隣にいながら本当に行けるのかなという思いがありました。新聞でいつも広告を見ていたのでもともとピースボートクルーズのことは知つ

ていました。パートの面接のときも、将来の夢を聞かれるときと答えるくらいだったんです。ピースボートのことを知つてから実に10年以上、それがついに実現すると思うと嬉しくて仕方ありませんでした。それからは不安よりも嬉しさのほうが勝つ、いつも世界地図を見ていました。このあたりを船で通るんだと思うと、地図を眺めるだけで夢が膨むものです。

坂野井…私の場合は15年ほど前になりますが、青森で自分のレストランを構えていたときに、お店にポスターを貼ってくれないかとボランティアスタッフが来たのがきっかけでした。



■充実の船内生活

泉(千栄子)…乗る前に横浜の船内見学会に行つたのですが、そこで説明してくれた方が「やりたいことがたくさんあります

た。私としても、こんなのがあるんだと驚き、すぐに問い合わせの電話をしたことを覚えています。最初は飲食店の経験を活かして船で働けないかと思ったのですが、それはできずに断念しました。それから10年ほどして東京に出てきたときのこと、たまたま通つたお店の前で目にしたのがピースボートのポスターでした。そこで乗船を断念した当時の記憶が蘇つたんですね。すぐにジャパングレイスに行き、第91回地球一周クルーズに乗ることになりました。乗船が決まってからは図書館で寄港地のことを調べる日々でした。

泉(英伸)…私が乗船した第81回地球一周クルーズでは、同窓会のような形で一年に一回集まることがあります。そのときはもういろんな話に花が咲くんです。

泉(千栄子)…乗る前に横浜の船内見学会に行つたのですが、そこで説明してくれた方が「やりたいことがたくさんあります

た。私は運動会のときに若者とシニアの役に任命されたこともあります。

坂野井…たしかにそうですね。私は一人つなぎ役としてチームの「会長」という役に任命されたことがあります。

若者と一緒に旗や法被を作るなど、学生に戻つたようなかけがえのない日々を過ごしました。

泉(英伸)…たしかにそうですね。私は一人での参加でしたが、たくさんの方々に見られました。船に乗りたが、そこに立たないと味わえない

100日間は必要ですね(笑)。でもこれから乗船される方々に唯一アドバイスをするとしたら、それは「あまり心配しない」ということです。

泉(千栄子)…乗船までも、坂野井さんのように図書館などで調べて知識がある状態で寄港地へ行くと、学んだ通りの部

とそうでない部分の両方の発見がある

から、旅が余計におもしろくなるかもしれませんね。

坂野井…たしかにそうですね。私は一人で旅が余計におもしろくなるかもしれませんね。

泉(英伸)…私がマチュピチュに行つたとき、テレビや雑誌で見慣れたはずの景色でした。が、そこに立たないと味わえない

神々しさがあります。これまで乗つてからも、自分のやりたいようにやるものが一番。

坂野井…地球一周の船旅

親善大使として常日頃から皆さんに言つているのは「楽しむのも楽しまないのも自分次第」ということ。一日中海をぼつと眺めるのも日本にいたら絶対にできないことですからね。皆さんのが100日間が素敵な船旅になることを願っています。

泉(千栄子)…乗船までも、坂野井さんのように図書館などで調べて知識がある状態で寄港地へ行くと、学んだ通りの部

とそうでない部分の両方の発見がある

から、旅が余計におもしろくなるかもしれませんね。

坂野井…たしかにそうですね。私は一人で旅が余計におもしろくなるかもしれませんね。

泉(英伸)…私がマチュピチュに行つたとき、テレビや雑誌で見慣れたはずの景色でした。が、そこに立たないと味わえない

神々しさがあります。これまで乗つてからも、自分のやりたいようにやるものが一番。

坂野井…地球一周の船旅

親善大使として常日頃から皆さんに言つ

ているのは「楽しむのも楽しまないのも自分次第」ということ。一日中海をぼつと

眺めるのも日本にいたら絶対にできない

ことですからね。皆さんのが100日間が

素敵な船旅になることを願っています。

も見ることができ、写真にも収めること

とを教えてもらい、幸運なことに何度も見ることができ、写真にも収めること

ができました。

泉(千栄子)…海をぼつと眺めているだけでも本当に楽しめますよね。イル

デックにはよく足を運んだものです。

坂野井…私も船内新聞で日々新聞を見ながら、いろいろ企画に参加して本当に忙しかったです。次第にやることも決まってきて、私の場合はウクレレと和太鼓に集中しました。ウクレレなんて乗船前はさわったこともなかつたのに、降りる頃には歌いながら弾けるくらいになつていました。

デッキで海を見ながらウクレレを奏でて、それはもう至福の時間でした。

泉(英伸)…私もデッキにはよく足を運んだものです。

坂野井…私も最初は船内新聞を見ながら、いろいろ企画に参加して本当に忙しかったです。次第にやることも決まってきて、私の場合はウクレレと和太鼓に集中しました。ウクレレなんて乗船前はさわったこともなかつたのに、降りる頃には歌いながら弾けるくらいになつていました。

デッキで海を見ながらウクレレを奏でて、それはもう至福の時間でした。

泉(英伸)…私もデッキにはよく足を運んだものです。

坂野井…私も最初は船内新聞を見ながら、いろいろ企画に参加

交流

Communication

世代も国籍も越えた 素敵な出会い

ピースボートは出会いの連続。それも、きっと同じ船に乗り合わせていなかったら一生出会わなかつてあろう人たちはばかり。最近ではアジア各国からの乗船者も増え、ますます活気づいている。



船内には座って話せる場所もたくさん。



日本の文化も外国の方に紹介。



定期的に開かれるバーベキューは絶好の交流の場に。



● 夏祭り

浴衣があれば雰囲気も出る。夏クルーズ以外でも祭りは開催される。



● 洋上結婚式 クルーズによつて洋上の挙式があることも。同航者の一員として参加してみたい。



● ビンゴ大会 広めの会場はすぐに満員に。もしかしたら豪華景品が当たるかも?

船旅の魅力は寄港地だけではない!

船内では若者からシニアまで一緒に楽しめる催し物がたくさん。季節に合わせたイベントも多く、洋上で体験するそれらのイベントはきっと一生の思い出に。



● 運動会

ピースボートの人気イベント。いくつかの色に分かれた各チームは旗や法被を作つて準備は万端。船内の盛り上がりは最高潮に。



● フルーツパーティー

新鮮なフルーツは寄港地で仕入れる。珍しいフルーツも登場。(有料)



食事

Meals

船内で食事をとれる場所は全部で3ヶ所。場所によって献立が異なり、自分が好きなものを食べることができる。寄港地で新鮮な食材を仕入れ、その地にちなんだメニューが出ることも。それでも常に和食を食べられるのは嬉しい。

和食から寄港地にちなんだ食事まで



イベント
Events

船内生活

充実のクルーズを満喫する

Pickup

ピースボートの船内生活を語るのに不可欠なものが大きく3つ。それが「食事」「イベント」「交流」だ。特に最近はアジア各国からの乗船者も増えたことで、食事もバラエティに富み、船内にいながら国際交流ができるなど、ますますの盛り上がりを見せている。



エグゼクティブ・シェフ
石崎啓之

体を動かしたい方

船内にはスポーツデッキやジムも完備。デッキでのウォーキングも可能だ。室内スペースでも卓球やヨガレッスンなどさまざまな形で体を動かすことができる。船内で開かれるスポーツ大会は毎回大盛り上がりだ。



サッカー大会

水先案内人が参加することも。サッカー経験者がやさしく教えてくれるから、女性も安心して参加できる。



卓球同好会

卓球大会では海外からの乗船者とペアを組んで試合をすることも。

文化系が好きな方

「絵画」や「切り絵」をはじめ「南京玉すだれ」など、普段では習えないような特徴的な企画も多数。初心者でも、下船時にはすっかりマスターしている場合がほとんど。下船後に趣味として続ける人も多くいる。



各教室展示会

手が込んだ素敵な作品がフリースペースを彩る。下船後の家族へのプレゼントなど、作る人によって想いはさまざまだ。



浴衣着付け教室
夏祭りの前日には着付け教室も行われる。当日は自分で着付けにチャレンジ。



南京玉すだれ
ピースボートによく行われる有名企画。「トあ、さて。あ、さて」と掛け声が聞こえてくる。

友達をつくりたい方

一人での参加で友人ができるか不安だという方もご安心あれ。出身地や生まれた年など、さまざまなテーマでメンバーが大集合。企画で仲良くなったメンバーと一緒に寄港地巡りをする人もいるくらいだ。



どさん子集まれ

「北海道出身」や「北海道にゆかりのある人」というテーマで若者からシニアまで大集合。



87年集まれ

「1987年生まれ」でメンバー募集。船内新聞の集客効果は絶大だ。

音楽が好きな方

楽器を使ったものからコーラスまで、ジャンルはさまざま。発表会に向け、船内のいたるところで練習が行われている。友人の晴れ舞台を一目見ようと、発表会には多くのギャラリーで会場が埋め尽くされる。



詩吟同好会

今まであまり触れる機会がなかった「詩吟」には乗船者も興味津々。



フラを踊りましょう
リズムの取り方からステップまで先生が丁寧に指導。

ウクレレ演奏

下船後も続けようと寄港地でウクレレを購入する人も多い。

あなたのちょっとしたアイデアが、きっと皆さんにも喜んでいただけることでしょう!



船内生活

自分たちでイベントをつくる

自主企画

船内には、乗船者発案の「自主企画」もたくさんあるのがピースボートの大きな特長。乗船者の方の趣味や特技など、テーマは自由。もちろんスタッフがサポートしてくれるから、はじめての方でも安心。どんな企画ができるかはあなた次第だ。自主企画で使えるものはぜひ船に持ち込んでおきたい。



自主企画申請広場

フリースペースにて行われる自主企画の申請会。



その日の企画は毎日部屋に届く船内新聞で知ることができる。

船上百景 [展望大浴場～世界湯～]



広々とした開放的なスペース。浴場全体に明るい日差しが降り注ぐ。

世界の海を眺望しながら くつろげる展望大浴場がオープン

第97回 地球一周クルーズからオーシャンドリーム号7階後方デッキに新設された展望大浴場「世界湯」。予約も不要という気軽さからオープン以来、老若男女で賑わっている。

毎日入浴しに来ているという60代の男性に聞くと「ゆっくりと脚も伸ばせますし、なにより世界の海を見ながらお風呂に入れるなんて夢のような気分です。デッキから浴場が見えないよう屋根は斜めのスリット状になつているのですが、青空も充分に望む」とができるんですよ。サウナも併設されています、申し分ありません」

ゆっくりと続く航跡を見ながら、これまで、そしてこれから船旅に思いを馳せる。飛行機の旅では決して味わえない至福の時間があなたのことを待つている。



ゆったりと癒されるひととき。



ほのかな木の香りが漂う新設されたサウナ。

今冬、北米大陸では記録的寒波に見舞われ、「ありえないものが凍つた」という驚愕のニュースが世界中に流れました。その正体は、今号で特集したナイアガラの滝でした。完全凍結に近い状態で、滝全体が白く幻想的な冬景色となつたというから驚きです。

そんな寒さ厳しい冬も過ぎ去り、この間にか新緑が生い茂る季節となりました。寒かった頃は室内から出られずにいたのですが、春になって映画館へ行きましたのでその映画を紹介します。今年2月公開の「ナチュラルウーマン」。最初にイグアスの滝が登場しますが舞台はブラジル・アルゼンチンと同じく南米のチリ。主人公が自分らしさを貫いて差別や偏見に立ち向かうという作品です。以前クルーズでも訪れたことのあるサンティアゴの街に懐かしさを感じました。乗船前から寄港地にまつわる映画や本に触れるのはとてもおすすめです。

春は出会いの季節。素敵な出会いを探しに外へ出かけてみませんか。(S・N)

